

2025年1月21日(日)に地域防災セミナーを開催いたしました。

タイトル：「能登半島地震・豪雨から学ぶ 地震被害と災害後の生活」 ～在宅避難・避難所を考える～

講師：横浜市立大学 国際教養学部 都市学系 准教授

石川 永子氏

1) 能登半島地震の揺れと地震の被害

半島全体の各所で地震の揺れによる液状化、断水や陸の道路は寸断され社会的孤立が起こった。津波と高さ2mの海岸隆起、物資を運び、人を治療する病院船も接岸できなかった。輪島朝市では海の近く小さな電気火災であったが、津波が来るかもしれないと消火より避難を優先、延焼が次々と起こり、そして大火になった。さらに9月21日の奥能登等の線状降水帯の発達による豪雨被害はさらに深刻でようやく復旧復興に立ち上がろうとする能登の人々の希望と気力を奪っていった。地震と豪雨の甚大な被害をもたらす複合災害となった。

2) 避難所と在宅避難生活

長期間の避難生活となり、集落や地区避難所が家族毎のテントなどでプライバシーに配慮するようになった。断水が続く中、在宅避難者の生活も厳しさを増している。避難所では生活ルールがきめられた。30分ごとのやることリストというものがつくられそれにしたがって生活するようになり、試みは被災者も協力して成功した。

避難所の衛生環境はよくなかった。体育館内の土埃は病気になりやすい。

7ヶ月目に段ボール ベッドが届いた。

段ボールベッドは高さもあり床のホコリを吸うことが少なくなりました。

トイレ問題も深刻で当初トイレ山盛りその後簡易トイレも使ったがトイレ・カーなどが来て大きく改善された。

キッチン カー が来るようになり炊き出しのスタイルも変わっていった。



3) 能登半島地震の課題から東京に住む私たちが考えるべきこと

- ・在宅避難にそなえて事前準備を怠らないこと
- ・避難所の環境向上と課題
- ・配慮が必要な高齢者等への地域での支援体制の整備

4)避難所の国際的なスフィア基準(めざす数値の目安)

トイレを避難者20人につき1つ以上設置

トイレの個室数は、男性1に対して女性を3

1人1日あたり最低15リットルの水を使用

1人あたり3.5平米を超える居住空間が必要。

目標は「被災者の安全と尊厳のある生活を送る権利」を守る

ために何ができるかを実現すること。

日本の避難所の居住水準はスフィア基準の理念や数値に遠く及ばない。

5)「クロスロードゲーム」

岐路、分かれ道のこと。災害対応は、ジレンマを伴う重大な決断です。

災害対応は、重大な決断の連続です。災害対応、正解のない問いの連続。

個人の、そして地域の「ジレンマ」にどう向かい合うのか。

クロスロード(1)

あなたは、東京都東部の病院の看護師です。病院の入り口で重症患者が搬送されている様子をマスコミが写真に取っています。腹に据えかねる行動です。

やめさせますか？ YES(やめさせる) or NO それはなぜ？

クロスロード(2)

避難所の担当、小学校体育館にいます。500人の住民がいます。水や食料は手に入らない状況です。「1時間後におにぎりが150個と菓子パンが100個を届きます」

被災者に配りますか？やめますか？YES(配る) or NO(配らない) それはなぜ？

参加者の感想の一部をご紹介します

○避難所生活についてのクロスロードゲームで参加された皆様と一緒にディスカッションできてよかった。少数派、多数派それぞれの理由を聞いて勉強になった。

(菓子パンを半分に配るなど)

○避難所の環境が原因でインフルエンザ、ノロウイルス、コロナなどの感染症が発生しやすくなるのが心配。身体の弱い方は在宅避難が安心と学びました。

○在宅避難できるよう日頃から備えたい。小型非常電源を持つのも大事、確保したい。

○災害を防ぐ事はできないが、孤立しないようにしたい。大切なのはその後だと思う。

避難の実像に近づくことができた。こころの準備が少しできました。

若林・三軒茶屋地域のいくつかの取り組み

○ライフラインが被害を受けすべて使えなくなっても極力在宅避難で家にとどまりましょう。

○避難所は在宅避難の人が受ける物資支援の拠点でもある。但し、支援物資が届いていないうちは物資はないと認識してください。

○災害支援情報などは避難所と地域の公園や町会掲示板で周知する、またデジタル情報として三軒茶屋地域はSNSのいちのいち、ロコハブ三軒茶屋などで、若林地域はSNSのいちのいち、防災LINE、ホームページで情報発信して住民に周知していきたい。

若林地区身近なまちづくり推進協議会は若林まちづくりセンター管内の住民委員で構成された協議会です。安全安心部会は主に防災・防犯・交通安全など地域の安全安心まちづくりを推進しています。この通信は三軒茶屋・若林地域に掲示・回覧・配布しています。世田谷区のホームページからも見るができます。